



# 白桜小だより

平成 28 年度 2 月号  
中野区立白桜小学校  
校長 宇賀神 佳子  
平成 29 年 2 月 1 日発行

## 言葉の力

副校長 藤原 留美子

学校のほう石

おく上で

とう明の

キラキラ

ひかる

プールを見た。

まるでほう石

みたいだな。

夕方の一ばんぼし

あ、一ばんぼし！

お空も

青とオレンジで

きれいだけど、

おほしさまもいると

もつときれい。

気がつくとき、

夜だけど、

おほしさまは

今、どこかなあ。

みどりの鳥

「あさだ」

学校に

行くときに

みどりの鳥を

見た。

「チュン」

と鳴いた。

「あなたは、すずめ」

かわいいと思っ

たし

ふしぎにも思っ

た。

2年生の詩を紹介しました。本校の屋上には、富士山の絶景スポットがあります。空気が澄んでいる冬晴れの朝には、真っ白い頂きをビルの向こうに見ることができます。このことを全校朝会で話すと、早速2年生が、そのスポットを探し出しました。余程、驚いたのでしょうか。すぐに書いた詩は、子供たちの気持ちが自分だけの言葉で綴られました。そして、一つの感動をきっかけに、次々と「世界に一つだけ！」のオリジナルの詩が生まれました。

先日、故郷から同窓会の案内状が届きました。それに「得意のときも失意のときも スマイル スマイル にっこりスマイル」と、懐かしい言葉が添えられていました。この言葉を大切に思っていたのは、私一人ではなかったことが分かり、胸が熱くなりました。受験に失敗した時、思うように就職活動が進まなかった頃・・・悲しくて、苦しくて、思いつきり泣いた後に、そして物事が順調に進んでも決して驕らず身を引き締めて、スッと前を向いて歩くことが出来たのは、恩師のこの言葉があったからです。

昨年末に出された、「学習指導要領等の改善及び方策等について（中央教育審議会答申）」では、現行の教科書で大切にされている「言語」は、内容の見直しを図りながら継続して重視していく必要があると述べられています。言語能力を育てるためには、意図的・計画的に指導を重ねることは勿論ですが、日常的に言語に触れることが大事です。

本校では、2月6日から17日までの2週間を読書旬間として、読書に対する関心を高め、良書に親しませます。旬間中は、朝の時間を読書タイムとして、穏やかな気持ちで一日をスタートさせるために全校一斉に読書を行います。また「おはなしの椅子」の皆さんや保護者の方々による読み聞かせが予定されています。多くの児童が本に関心を持ち、本の世界に浸って欲しいです。前述の答申にも、読書は「多くの語彙や多様な表現を通して様々な世界に触れ、これを擬似的に体験したり知識を獲得したりして、新たな考え方を可能にする」ことから読書活動の充実を図ることの必要性が述べられています。

言葉から、豊かに感じ、想像力や創造力を育てる力を、本はもっています。一つの言葉で、人は多くのことを感じ、想像することができます。そして、励まし、勇気づけてくれます。

「しばらく、おうて（会って）ないねえ。帰ってきいや。」との土佐弁が、私を元気にしてくれます。